

平成22年5月25日

各位

会社名 株式会社ホッコク
代表者名 代表取締役社長 吉田 泰昌
(JASDAQ・コード2906)
問合せ先 専務取締役 青池 啓忠
電話 03-5695-2005

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成22年3月期において特別損失（引当金）を計上する必要が生じたので、お知らせいたします。計上する特別損失といたしましては、拡大する当社グループの事業再編並びに経営資源の戦略的シフトを基本方針として周辺事業の見直しを行うことによる損失（以下、事業構造改革損失という。）が発生したことによるものです。

また、本件に伴い、平成21年11月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

記

I. 特別損失の計上

1. 特別損失の内容

平成22年3月期個別決算において当社は、事業構造改革損失777百万円を計上することとなりました。事業構造改革損失とは、拡大する当社グループの事業再編並びに経営資源の戦略的シフトを基本方針として周辺事業の見直しを行うことにより発生する損失であります。事業構造改革損失のうち、当社の取引先である2社との取引において、各向け債権が長期化したためそれぞれ引当金として200百万円、267百万円を計上するものであります。2社の取引先詳細に付きましては、次項をご覧ください。なお、上記2社以外に11社に対して計310百万円の引当金を計上しております。

2. 取引先1

(1) 計上に至った経緯

貸し付け期間が長期化したため。

(2) 取引先の概要

取引先の事業内容 : IMPORT / EXPORT OF FOODS AND INVESTMENT IN CHINA.

上場会社と当該会社との関係等 : 資本関係、人的関係、関連当事者への該当状況に該当ありません。

取引関係として金銭消費貸借契約に基づく融資があります。

(3) 該取引先に対する債権の種類及び金額

a. 債権の種類

貸付金

b. 金額

200 百万円 (全額引当)

c. 最近事業年度末における純資産に対する割合

3.6%

(4) 今後の見通し

当社の平成 22 年 3 月期決算発表は、平成 22 年 5 月 26 日を予定しておりますので、詳細につきましては平成 22 年 3 月期決算短信をご覧ください。

3. 取引先 2

(1) 計上に至った経緯

売掛金の回収期間が長期化したため。

(2) 取引先の概要

取引先の事業内容 : 海産物の仕入販売

上場会社と当該会社との関係等 : 資本関係、人的関係、関連当事者への該当状況に該当ありません。

取引関係として当社が商品を販売しております。

(3) 当該取引先に対する債権の種類及び金額

a. 債権の種類

売掛金

b. 金額

267 百万円 (全額引当)

c. 最近事業年度末における純資産に対する割合

4.9%

(4) 今後の見通し

当社の平成 22 年 3 月期決算発表は、平成 22 年 5 月 26 日を予定しておりますので、詳細につきましては平成 22 年 3 月期決算短信をご覧ください。

II. 平成 22 年 3 月期 業績予想の修正について

1. 通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

（連結）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	7,420	71	164	91	円 銭 6.59
今回修正（B）	7,000	△110	△115	△942	△68.46
増減額（B－A）	△420	△181	△279	△1,033	－
増減率	△5.7	－	－	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 21 年 3 月期）	4,787	21	110	1,115	79.53

（個別）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想（A）	5,995	170	286	117	円 銭 8.47
今回修正（B）	5,436	10	44	△824	△59.87
増減額（B－A）	△559	△160	△242	△941	－
増減率	△9.3	△94.1	△84.6	－	－
（ご参考）前期実績 （平成 21 年 3 月期）	3,306	11	143	1,172	83.54

2. 修正理由

当連結会計期間における当社グループを取り巻く環境は、企業収益の大幅減少からくる雇用情勢の悪化が続き、景気の減速傾向が一段と強まりました。その影響を受け個人消費の低迷が長期化し、外食産業の利用控えと店舗間の顧客獲得競争が激化しております。このような中で当社グループは、売上維持のための積極的な販売促進活動及び消費者の低価格嗜好に対応いたしました。

（1）売上高

（連結・個別）

当連結会計期間の売上高は、環境の厳しい中で積極的な販売促進活動や新規加盟店の増加等があり当初予想のとおり推移しました。個別の売上高では、不採算店の閉店が当初予定より進んだことで若干当初予想を下回りました。

（2）営業利益

（連結）

当連結会計期間の営業利益は、積極的な販売促進活動及び消費者の低価格嗜好に対応したことで原価並びに販売管理費が増加しました。また、後述する個別の理由が主なものとなり、当初予想から 181 百万円減少したことで当連結会計期間の営業損失を 110 百万円に修正します。

（個別）

連結のとおりの内容に加え、平成 21 年 6 月より事業譲渡を受けた「らー麵藤平」店舗 33 店の内、不採算となる店舗があり、採算化の努力にも係らず人件費等の経費負担が大きくなったため販管費が膨らんだことによります。また、既存大型直営店である紅虎餃子房銀座店及びイベリコ銀座店の収益が悪化したことによる影響がありました（両店とも平成 21 年 12 月末閉店済み）。これにより、当初予想から 160 百万円減少したことで当連結会計期間の営業利益を 10 百万円に修正します。

(3) 経常利益

(連結)

当連結会計期間の経常利益を修正した主な理由につきましては、後述する個別によります。これにより、当初予想から 279 百万円減少し当連結会計期間の経常損失を 115 百万円に修正します。

(個別)

連結のとおりの内容に加え、直営店の不採算店の閉店による賃貸借契約の保証金及び敷き引き償却による雑損失やら一廻藤平の事務所撤退等に伴う雑損失 61 百万円の計上があったことによります。当社物流網の一部大手物流への委託に伴い、既存個人物流への営業補償として雑損失 10 百万円を計上しました。また、海外取引による為替差損 12 百万円の計上によるものです。これにより、当初予想から 242 百万円減少し当連結会計期間の経常利益を 44 百万円に修正します。

(4) 当期純利益

(連結)

当連結会計期間の当期純利益を修正した主な理由につきましては、後述する個別によります。これにより、当初予想から 1,033 百万円減少し当連結会計期間の当期純損失を 942 百万円に修正します。

(個別)

連結のとおりの内容に加え、前述のとおり事業構造改革損失777百万円の計上があったことによります。完全子会社味の花が平成22年3月30日付で当社へ吸収合併されたことにより味の花の本社土地・建物の減損損失70百万円の計上があったことによります。また、関係会社株式評価損88百万円の計上があったことによります。これにより、当初予想から941百万円減少し当連結会計期間の当期純損失を824百万円に修正します。

(その他投資者が会社情報を適切に理解・判断するために必要な事項)

(参考) 平成21年3月期連結 (実績)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期 (4月/1日～9月/30日)	1,737	△204	△187	1,221
通期 (4月/1日～3月/31日)	4,787	21	110	1,115

(参考) 平成21年3月期個別 (実績)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
第2四半期 (4月/1日～9月/30日)	—	—	—	—
通期 (4月/1日～3月/31日)	3,306	11	143	1,172

以 上